

うた少年少女バレーボールクラブ 全国大会出場！

7月26日

6月17日に行われた全国大会奈良予選において、全試合ストレート勝ちの圧勝で優勝、また8月7日から10日に川崎市などで開催の「第38回全日本バレーボール小学生全国大会」に県代表として出場する、うた少年少女バレーボールクラブの選手が、高見市長へ報告のため来庁されました。

市長からの激励のあと、キャプテンの古川選手は「練習してきた成果を発揮し、いつも支え指導してくれた皆さんの思いを胸に、優勝を目指してがんばります」と決意を述べられました。

全国大会では、残念ながらベスト4は逃しましたが、皆さん日頃の成果を発揮されたようです。



東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー 巡回展示

8月16日

東京2020五輪大会開催まで約2年となり、全国各地ではオリンピック・パラリンピックを盛り上げようといイベントを開催されています。また、聖火リレーコースも決定し、2020年3月26日に福島県をスタートし、奈良県内では4月12日から13日に通過する予定。聖火は約4か月をかけて全国を回ります。

この度、市として五輪旗とパラリンピック旗が全国各地を巡り、東京2020大会を盛り上げる「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」に参加。

8月16日、河合町から受け継いだ旗を市役所1階エントランスにて展示

し、また次の御杖村へと引き継ぎました。



人権出前教室 開催

7月31日・8月1日

桜井宇陀人権擁護委員の活動のひとつとして、小学校や幼稚園、保育所に出向き、人権出前教室を行ってられます。今回は、室生こども園・榛原小学校で行われました。

7月31日、室生こども園では、エプロンシアターや紙芝居などを通じて、みんなと仲良くすることや、思いやりの大切さなどを伝えていただきました。



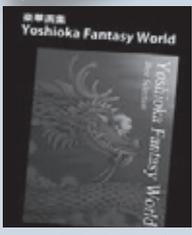
また8月1日、榛原小学校の学童保育では、男女共同参画について行い、「男の子のくせに」「女の子だから」などではなく、一人ひとり、みんな違うことを認め合い、自分の気持ちに素直になることの大切さを紙芝居などを通じて学びました。

「人権」とは決して難しいことではなく、自分の身の回りにあることだと、わかりやすく伝えてもらいました。





話題の
新刊本!



芳岡ひでき画集
～Yoshioka Fantasy World Best Selection～
著：芳岡ひでき

絵から飛び出したキャラクター、家出ネコやそらまめ君たちが、自由気ままに生活しているSKY FANTASY LANDを楽しむ画集。(大宇陀図書館所蔵)



いじめられたお姫さま
中将姫物語
文：寮 美千子
出版：ロクリン社

小さい頃に母親を亡くした、大臣の娘の中将姫。見事なお琴の腕前に、継母が嫉妬して…。歌舞伎、講談、人形浄瑠璃など、さまざまな形で語り継がれてきた名作を子ども向けの読み物に。解説、中将姫ゆかりの地案内も収録。(大宇陀図書館所蔵)

図書館からの
まめ知識 Vol.54

中央館の郷土資料のコーナーに、新たに『宇陀歴史誕生Ⅶ このようにして織田家宇陀松山藩は誕生した』が加わりました。これは本著の著者山本雅則氏よりご寄贈いただいたものです。心よりお礼申し上げます。



「郷土資料」とは図書館資料の種類の一つで、図書館の所在する地域や自治体に関する資料の総称です。以前は、郷土史に関する資料とみなされ地域資料とも言われていました。

現在の公共図書館は、その地域についての資料を責任もって収集することが業務の一つとして位置付けられており、それら資料についての質問に対応することも重要な業務となっています。気軽にご利用いただくことで、新たな郷土の魅力に出会う事ができるかも・・・

おはなし会やその他のお知らせは P24

はいばら花火大会

8月5日

宇陀川河畔において、「第61回宇陀市はいばら花火大会」「第4回全国花火まほろば競技大会」が同時開催されました。

競技大会には全国から15社の出品があり、各社趣向を凝らした花火に、多くの観客から歓声が上がりました。

昨年より、8月第1日曜日に日程が変更されたことから、約41,000人の観客が訪れ、真夏の夜空に色鮮やかに咲く約4,000発の花火に魅了されました。

今年の競技大会の結果は、次のとおりです。

- ≪最優秀賞≫内閣府特命担当大臣賞
株式会社 山内煙火店 (山梨県)
- ≪優秀賞≫奈良県知事賞
株式会社 紅谷青木煙火店 (長野県)
- ≪優良賞≫宇陀市長賞
株式会社 北日本花火興業 (秋田県)
- ≪特別賞≫(一般審査員賞)まほろば賞
有限会社 紀州煙火 (和歌山県)



逢いたい人と逢える星の夜会 in 青蓮寺

8月11日

菟田野宇賀志の山中にある中将姫ゆかりの青蓮寺。鬱蒼とした木々に囲まれ、人工の光が届きにくい寺の境内で星を眺めようというこのイベント。

青蓮寺住職のお話のあと、教育総務課岡橋課長による望遠鏡を使った星空解説には、参加した子どもから大人までが興味津々に聞き入りました。参加者やスタッフ一同、雲の隙間から見え隠れる木星や土星、火星の姿を望遠鏡越しに眺め、宇宙の広大さに驚いていました。

青蓮寺は、中将姫の伝説から、「逢いたい人と夢かなう寺」との異名もあり、逢いたい人へと星々に願いを託した夜会となりました。

